

No. 1303

新春の天皇ご一家

昭和54年、初春のおだやかな日射しに包まれた皇居。天皇ご一家は揃って新年を迎えられました。

天皇陛下は今年78歳の誕生日を迎えられますが、浩宮、礼宮、紀宮の三人のお孫さんに囲まれ楽しい毎日、新春の天皇ご一家です。

五つ子

元気にお正月

東京、大田区に住む山下頼充さん夫妻の五つ子ちゃんが3回目のお正月を迎えました。今日はお母さんといっしょに子供部屋で楽しいお遊び。五人とも見違えるほどの成長ぶりを見せ、みんなで力を合わせて、汽車ごっこ、ままごとなどをするようになりました。福田郎ちゃんと洋平ちゃんは男の子らしくバスやトラックに興味を示しています。一番下の智子ちゃんは兄弟一のおしゃまで時々母親の紀子さんを困らせています。もうすぐ満3歳の誕生日を迎える五つ子ちゃんです。

鳥の詩

東京湾の広大な埋立地の片隅にある小さな湿地帯。冬も雪や氷に閉ざされないこのあたりは今が一年中で一番鳥の多い季節だ。人々はここを野鳥の楽園と呼び、鳥たちは水際に空にきわだった美しさを見せている。自然が失なわれ行く都会の真ん中にあるだけに楽園を訪れる人も多い。この楽園を守っているのは蓮尾さん夫妻だ。ここに移り住んでもう3年にもなる。今まで何回ともなく見学者を連れてこの堤防を歩いた。そのたびに蓮尾さんは鳥を愛する人々が絶えないことを願う。見回りは蓮尾さんの毎日の日課だ。時々傷ついた鳥を見つけることがある。飛べるようになるとまた鳥は大空に帰って行く、鳥には鳥の世界があるのだと蓮尾さんは言う。鳥は飛ぶ、そして大空を乱舞する。高く、低く、自由に、冬の冷めたい大気をふるわせて。やがて水ぬるむ春がくると鳥たちは遠い北国に帰って行く。